

2024 年度事業報告

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

1. 事業の概要

21 世紀も 4 分の 1 が過ぎ、政治・経済も環境も大きく変わっています。日本の国力も下り坂であり、その中でこれからの新しい生き方についても考えてみようとして 2024 年度の活動方針に書きました。

地球の木の活動は、自立支援でつながっているネパールやラオスの村人や子どもたち、クラフト品の生産者たち、地域でつながる外国籍の人たちはもちろんのこと、地球上すべての人々が、人が人らしくあたりまえに生きていくことができる社会をめざして、つながっています。市民の集まりである地球の木で何をしていくのか。2024 年度は、2025 年度から 2027 年度までの 3 年間の目標や計画を話し合い、まとめました（別紙参照）。設立から 34 年が過ぎ、新たな希望や価値を作り出すことで、新しい生き方も見つけていきます。

3 月に開催した地球の木講座では、「脱成長」をテーマに学習しました。大量生産・大量消費のこれまでの経済成長型モデルは持続可能ではないと多くの人が気づいています。節度ある豊かさについて考え、誰でもができる自律的かつ協働的に生活できる社会づくりについて今後も考えていきます。

また、2024 年度で 3 年間取り組んできたラオス図書プログラムが終了しました。多くの方々から絵本の寄付、貼付活動へのボランティア参加、絵本をラオスの子ども達のもとに届けるための運送費の寄付など、さまざまな形でのご協力により、プログラムを進めることができました。今後の子ども達の変化が楽しみです。

ラオスプログラムも 3 年間の支援期間が 2024 年度で終了しました。その後に村を変えて行われる JVC（日本国際ボランティアセンター）の「共有資源の管理・利用支援プロジェクト」の支援について、検討し、1 年間の継続を決めました。

9 月末に発生したネパールでの洪水では、支援地も大きな被害に遭いました。緊急支援を呼びかけたところ、40 万円以上の寄付があつまり、現地に届けることができました。

ネパールの教育募金や年末募金など、2024 年度も会員の皆さまをはじめ、多大なるご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

2. 事業報告

1) 自立支援事業

(アジアにおける社会的に困難な境遇にある人々に対する生活基盤確立のための自立支援事業)

<ネパール | 人材育成を通して地方自治を支える>

プログラム名：インドラサロワール農村自治体で教育の質を高めるためのプログラム

受益対象者：ネパール、バグマティ州マクワンプル郡インドラサロワール農村自治体の住民

現地カウンターパート：SAGUN | 2024年度事業経費 1,953,833円

予定支援期間：2021年9月1日～2026年3月31日

プログラムの目的：

地球の木と SAGUN は、インドラサロワール農村自治体と共に、地域に住む児童・生徒および住民に、より良い教育を提供するためにパートナーとして協力する。全てのプロセスは住民参加型で行われる。少数民族や低カースト、貧困などによって弱い立場に置かれた人々、とりわけ子どもや若者が「質の高い教育」を受けられることに重点を置く。

■ 現地支援活動

教師や養護教諭が子どもたちの心理社会的な問題を理解して子どもたちに向き合い、教育をより良いものにしていけるようにカウンセリング・トレーニングを行った。IRM のこれまでの支援地域である 4 区、5 区に加え、他の 3 つの区に「質の高い教育」が広がった。引き続き、子どもたちが不得手な理科・算数／数学・英語 3 科目の強化に焦点を置く。

① カウンターパート：SAGUN

② 支援金：1,507,482 円

③ 地球の木従事人数：7 名

④ 現地活動

- ・自殺者が多く出たことなどを受け、教師や養護教諭を対象とした心理社会的問題カウンセリング・トレーニングを実施した。全 5 区からの参加者がカウンセリングの手法を学び、実践に移している。
- ・数学の教師トレーニングには IRM にあるすべての学校（21 校）の教師が参加し好評を得た。
- ・科学教室とサイエンスエキシビションを新しい地域（1 区、2 区、3 区）で実施したところ、生徒たちが苦手だった理科を楽しいと思うようになった。
- ・保護者が教育の重要性を理解するための保護者勉強会をすべての区で行い、1000 名以上が参加した。
- ・「質の高い教育」を推進していくのに役立つよう、インターネットを用いた英語学習法 E-learning やアロマ・自然療法に関する情報を地球の木から SAGUN に共有した。

■ 国内活動

教育募金を行い、100 名以上の方からご寄付をいただいた。報告会などでプログラムの成果や課題を伝えた。有志 3 名が極西部を訪問し、1997 年から 2008 年まで実施した支援の波及効果を確認するとともに、IRM における洪水の被害状況や活動の進捗状況を確認した。

- ・ネパール教育募金キャンペーンを実施し 581,500 円の寄付を集めることができた。企業への寄付の働きかけは実現しなかった。
- ・2024 年 2 月のモニタリング調査に関する報告をした（7/15 | 会場：横浜市開港記念会館 | 参加者：25 名）。
- ・ネパールネイティブのチームメンバーの協力で、「ロシラハールを読む会」を 4 回実施（5/29、6/26、7/24、9/11）。SAGUN の活動や開発のコンセプト、ネパールのことをより深く学ぶことができた。外部者に声掛けしたが、参加者を得られなかった。
- ・一年間、SAGUN と密に連絡を取り合い、プログラムの進捗状況、洪水の被害状況など情報収集した。SAGUN とのオンライン会議を行った（3 回）。
- ・活動計画になかった「シャルミラさんお話し会」（4/7 | 会場：かながわ県民活動サポートセンター | 参加者 17 名）、「ニルマラさんおしゃべり会」（7/15 | 会場：横浜市開港記念会館 | 参加者：25 名）を開催し、現行プログラム以外のネパール事情、講師の活動などについて学んだ。
- ・ニルマラさんの 24 年ぶりの日本滞在がきっかけで、チームから有志 3 名が極西部を訪れた。（自費参

加) どの村でも人々から家族のようにもてなされ、村人たち、SOARS の人々との結びつきがより強いものになった。1997 年から実施した識字教室や職業トレーニングの大きな波及効果があったことを確認できた。

同時に緊急支援を行った洪水の被災状況を確認するとともに、IRM の調査を実施することができた。これにより、IRM の役所のキーパーソンたちとより深い信頼関係を構築することができた。ニルマラさんと IRM をつなぐこともできた。支援校の先生、生徒たち、SAGUN と交流した。

<ラオス | 「共有資源を守る持続的な暮らしを目指す」>

プログラム名：森や川など共有資源の村人による管理・利用のためのプログラム

受益対象者：セコン県ラマーム郡およびタテン郡 10 村、約 1,600 世帯、およそ 9,500 人

現地カウンターパート：日本国際ボランティアセンター（JVC） | 2024 年度事業経費 705,725 円

予定支援期間：2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

プログラムの目的：

新規プロジェクト地である最貧困県の一つセコン県では、近年ゴムなどの大規模プランテーションなどの開発事業のみならず、住民によるキャッサバやコーヒー等の換金作物栽培がいたるところに広がっている。そのため不当な土地収用や過度の森林減少が引き起こされており、自然の恵みに依拠する農村部の暮らしの安定のためには共有資源の持続的な管理や利用の活動がより重要となる。

■ 現地支援活動

JVC が行っている「対象地域の村人が共有資源の価値を認識すること」、「地域の共有資源を持続的に管理、利用するための仕組みが整備されること」「法的権利に基づいて開発問題に対処するための基盤ができること」を目標とした「共有資源の管理・利用支援プロジェクト」を支援した。

① 支援金：500,000 円

JVC の現地活動「共有資源の管理・利用支援プロジェクト」を支援

② 地球の木従事人数: 4 名

③ JVC 現地活動

a. 村の基礎情報の収集・共有資源の価値に関する認識の共有

対象村 4 村において、村人とともに村の基礎情報（人口などの一般情報、歴史、生産物、村境など）を収集し、冊子や資料としてまとめ、住民に配付。この過程において村人が共有資源のもつ価値について認識を共有できるようサポートしてきた。ベトナム企業からセコン川の土砂採掘を高額の金銭供与と引き換えに提示されたが、その地域は魚保護地区が設定されており、環境への負荷が懸念されるなどの理由から、断る事例が 1 村で確認された。

b. 法律研修

対象村 4 村において、村が直面している開発問題の対処法を学ぶ村人向けの法律研修を行った。研修では、土地の契約や登記に関わる外部者との交渉や書類作成の講習、開発問題の解決に向けた行政機関や議会への陳情、請願のためのロールプレイングなどを行った。6 村の住民に対する法律研修で、住民自身が開発問題への対処方法について理解を深めた。

c. 共有資源

コミュニティ林や魚保護地区は、森林や河川の一定の区画を保護地区として設定し、林産物の採取や伐採、土地利用、漁猟などを制限する規則を定めることにより資源を持続的に管理・利用する仕組みの導入。規則や地図などを示す看板を村内に設置。

d. 提言活動

対象地域において行き過ぎた開発事業が確認された場合は、事業者や関係行政機関に対して改善を求める働きかけを行った。

中央、県、郡政府機関との会合で、JVC がまとめた共有資源管理のガイドラインを配布し、良い実践例として説明した。

■ 国内活動

JVC と共催で講演会「奪わない暮らしと行き過ぎた資本主義～8 年間の駐在で見えてきたこと～」を開催した。他団体と連携したことで、準備の仕方やアイデア等参考になった部分が多くあった。

- ・ JVC の後藤さん、山室さんから 2023 年度のラオスプロジェクト報告を受けた(4/5)
- ・ JVC 山室さんから 2024 年度のラオスプロジェクトの報告を受けた (3/7)
- ・ JVC と地球の木との共催で「ラオスの奪わない暮らしと行き過ぎた資本主義～8 年間の駐在で見えてきたこと～」を開催した。多くの世代の参加があり、社会問題についても前向きな意見が多く寄せられた。
(8/24 | 講師：JVC 山室さん | 会場：横浜市開港記念会館 | 参加者：26 名)

<ラオス | 「本と出会い、自分の世界を広げよう！」>

プログラム名：絵本や図書館を通じたラオスの子どもたちの教育環境向上プログラム

受 益 対 象 者： ラオス語環境絵本の増刷：出版本を配布するラオス全土の図書館利用者

現地カウンターパート：(特非)ラオスのこども | 2023年度事業経費 886,356円

予定支援期間：2022年4月 1 日～2025年 3 月31日

プログラムの目的：

ラオスでは学校教育は公用語のラオス語で行われている。ラオスの子どもたちが学校での学びを継続し、人生を切り拓いていくために低学年でラオス語を覚えることは必須となっている。教育基礎学力の基盤となる「文字習得」を目指す低学年の子どもたちが取り残されることのないように、ラオス語を楽しく自然に学べる絵本「リズムで学ぶラオス語」の再版支援を行う。

国内ではラオスの図書の現状についての理解を深め、活動を広報し、絵本などの提供者や貼付などのボランティアを含め、支援の輪を広げる。

■ 現地支援活動

学校での学びを継続し、知識や思考を深め、自分自身で物事を考えたり人生を切り拓いたりしていくために必須であるラオス語を楽しく自然と身につけられるよう、(特非) ラオスのこども の絵本の再販を支援した。

① カウンターパート：(特非) ラオスのこども (Action with Lao Children/以下 ALC)

② 支援金：500,000 円

上記支援金により、以下の現地活動を実施

③ 地球の木従事人数：4 名

④ 現地活動

ラオス現地で人気のある民話『カンパーとピーノーイ (孤児と小さなおばけ)』4500 冊を印刷し、その内 3000 冊を地球の木の寄付金で賄った。より多くの教育現場で活用してもらえるよう教育科学研究所 RIES(Research Institute for Educational Sciences)のリストに登録された。完成本は、ALC がこ

れまで支援してきた学校図書室（約 350 校）に配布される。

■ 国内活動

2023 年度に継続して翻訳貼付ボランティア活動を行った。夏休み企画として、「ラオスの絵本とあそぼう」のイベントを企画・実施した。すべての寄付絵本に翻訳を貼付し、ラオスに届けた。2022 年度からの 3 年間の活動報告書を作成し、ご協力いただいた方々に送付した。

① 貼付活動（貼付活動：11 回 ボランティア参加者：のべ 66 人）

2024 年度は絵本の寄付を募集していなかったが 14 冊の絵本をいただいた。ボランティア活動では、2023 年度にいただいた絵本に補修・貼付作業などを行いながら、ALC からの情報共有や、ラオス関連の絵本の紹介などを行い、ラオスやプログラムへの理解を深めた。現地図書館に届けられた絵本を見た子どもたちの様子を、ビデオレターで送っていただき、貼付ボランティアのみなさんと視聴した。また、依頼を受けてフリースクール「ここだね」で貼付絵本を使った読み聞かせなどを行った。

・出張ボランティア フリースクール「ここだね」

「地球の木ラオス図書プログラムの紹介」「ラオスを知るためのクイズ」から始まり、ラオスからの貼付絵本到着のお礼のビデオメッセージを視聴。その後、貼付した『14 ひきのひっこし』の日本語とラオス語での読み聞かせや『森の歌がきこえる』の読み聞かせを行った。

（1/17 | 会場：逗子市体験学習センタースマイル | 参加者：児童 14 名、スタッフ 2 名、保護者 1 名）

② イベント

夏休み企画として、「ラオスの絵本とあそぼう」という企画イベントを行なった。ラオス図書プログラムの紹介の後に行ったラオス語で遊ぼうの企画では、自己紹介をラオス語で行なってリズムに合わせて楽しんだ。そして、太鼓やレインスティックを使い音楽をつけた『森の歌がきこえる』の読み聞かせを行った。（7/25 | 会場：横浜市技能文化会館 | 参加者：8 名）

③ 寄付絵本のラオスへの運搬

コロナ禍以降、ラオスへの船便再開しないため、絵本の運搬が滞っていた。運搬費用の寄付募集を行い、192,500 円のご寄付をいただいた。運搬費用が賄えることとなり、順次空輸で ALC 現地事務所に併設する図書館に約 300 冊を届けた。2025 年 3 月に有志が 25 冊を現地図書館に届け、すべての絵本の運搬を完了した。

④ プログラム報告書

3 年間のプログラムを報告書にまとめ、会員や寄付金や絵本をご寄付いただいた方、ボランティアに参加して下さった方に届けた。

＜気仙沼支援＞「地元のためにがんばる若者を応援する」

支援してきた気仙沼の NPO 法人 TreeSeed の活動が縮小しており、指定寄付の残金についての使途を検討してきた。気仙沼の子どもたちが未来を考えられるような活動に使いたいという TreeSeed の意向を踏まえて、気仙沼で活動している人や団体を探した。その結果、気仙沼で教育とまちづくりをテーマに活動する「一般社団法人まるオフィス」に 71,521 円を寄付した。「まるオフィス」は、東日本大震災をきっかけに気仙沼に移住した若者と地元の若者が 2015 年に立ち上げた団体。

TreeSeed には、指定寄付を「まるオフィス」に寄付する旨と、今後も TreeSeed を必要に応じてサポートしていくことを伝えた。

2) 交易販売事業

(相互の自立に役立つ生産物の交易)

2023 年度に続き、生活クラブ生協、福祉クラブ生協の共同購入や生活クラブ生協デポー、イベント等での販売を行った。イベントでの販売は新規会員の獲得につながった。

人間的な課題などについて、第 7 次 3 か年計画のなかで交易販売事業の再検討を行うこととした。

① 生産者の情報発信

福祉クラブ生協、生活クラブ生協の共同購入では、生産者情報をカタログに記載するとともに、購入者にはクラフト品と一緒に生産者の情報を同封した。

イベント販売では、販売時に生産者について説明した。また、ことぶき協働センターなどでの委託販売では、生産者情報を掲示した。

② 生協の共同購入、デポー販売など

・委託販売

ことぶき協働センター、WE21 ショップほどがや・天王町店

・イベント販売

多文化フェア@なかやま (10/6)、オルタ館フェスタ(11/1・2)、かまくら国際交流フェスティバル (11/10)、東日本大震災復興まつり (11/23)、みどり国際交流ラウンジ講演会 (1/25)

・生協での共同購入販売

福祉クラブ生協 (5 月) と生活クラブ生協 (2 月) の共同購入を各 1 回行った。生活クラブ生協デポーでの共同購入については、過年度の実績から行わなかった。

・デポー販売

のぼりと (5/28)、東戸塚 (6/14)、つつじが丘 (7/9)、ほんもく (9/2)、東寺尾 (1/28)、ひらつか西海岸 (2/13・14)、鎌倉 (3/28)

・その他

d-lab (開発教育協会) (8/3・4)、いそご国際交流ラウンジ (9/21・12/26)、JICA ライブラリー (11/24)、福祉クラブ生協藤沢センター (2/15)

3) 緊急支援

(世界各国の自然災害・社会危機等による被災民に対しての緊急支援事業)

<ネパール水害被災者支援>

2024 年 9 月末にネパールを襲った未曾有の大洪水と地滑りにより、元支援地のロシ地域と現支援地の IRM は甚大な被害を受けた。ロシ地域では支援していた学校の校舎が壊れ、バザールは跡形もなくなった。ローカルファシリテータ、ムク・マヤ・タマンさんの家も流された。IRM には湖があり、ダムの開門の知らせが届いていなかった地域で支援校の生徒 6 名が洪水に巻き込まれ、命を落とした。

地球の木は緊急支援についてネパールプログラムのカウンターパートである SAGUN と話し合い、IRM とロシの両地域に洪水支援をすることを検討した。2024 年 11 月始めに緊急支援を行うことを決定し、12 月末まで寄付を募った募ったところ、40 万円以上の寄付が集まった。

1 月にネパールチームメンバーがネパールの極西部へ訪問したため、その際に支援金 40 万円を持参した。ロシ地域の被害が大きく、より支援を必要としているとの SAGUN の判断から、30 万円をロシ地域に、IRM に 10 万円を振り分けることとした。

ロシ地域では、小学校の校舎の修繕と再び洪水が起こっても村が流されないように保護する工事のために使うことになった。IRM 自治体への支援金は、IRM のバスケットファンドに寄付された。

2025 年度に緊急支援の最終報告は受ける予定。また、募金締め切り後に寄付されたため、6 万円程度の指定寄付金を持ち越しとなった。

4) 社会教育事業（啓発事業）

（相互理解を深めるための交流並びに国際協力推進のための社会教育事業）

<出前講座>

各出前講座を行いながら、開発教育協会（DEAR）のワークショップなどに参加し、ブラッシュアップにつとめた。

ネパール人の多住地域である神奈川区多文化共生ラウンジで、地域の人々にネパールについてのワークショップを行い好評だった。学校等での出前講座の実施件数を増やすことが今後の課題。

① 出前講座の実施

- ・ 鎌倉女学院高等学校（6/15）
- ・ 町田市立真光寺中学校（7/13）
- ・ 神奈川区多文化共生ラウンジ（11/17）
- ・ JICA ライブラリー（11/24）

② 講師のスキルアップ

- ・ 外部での研修参加 d-lab（全国研究集会）（8/3・4）

<多文化共生の地域づくり>

神奈川区多文化共生ラウンジと連携し、出前講座の実施につながった。実行委員や企画委員として参加している「あーすフェスタかながわ」では、ネパールの言葉と文化を紹介した。

① かながわネパール人コミュニティとの連携

同コミュニティに神奈川区多文化共生ラウンジを母国語学習教室の会場として紹介した。母国語教室は諸事情によりまだ始まっていない。同ラウンジで行われた「ネパールカフェトーク」にかながわネパール人コミュニティメンバーおよび地球の木メンバーも参加した（9/15）。

② 「学習会」や「対話カフェ」のプログラム作成

神奈川区多文化共生ラウンジと話し合いを行う中で、地域の人たちにネパールのことを知ってもらうための学習会を開催することとなり、出前講座「ネパールってどんな国？」を実施（11/17）。ネパール国籍の中学生たちの参加があり、当日は彼らにネパール語の初歩について講師になってもらった。

③ メールマガジン「Colorful world」の発行（登録者 62 名）

メールマガジン「Colorful world」を 9 回発行し（NO.16～24）、多文化共生にかかわる様々な団体によるイベントなどの紹介や参加報告などを発信した。

④ あーすフェスタかながわ 2024 への参加

本郷台の「あーすプラザ」で開催された「あーすフェスタかながわ 2024」（11/30・12/1）に参加し、「ネパールの言葉と文化」をブースで来場者に紹介した。「神奈川区多文化共生ラウンジ」にも参加呼びかけをした結果、ラウンジスタッフとともにネパール国籍の若者たちが来場し、ブースでのネパールの紹介に積極的にかかわってもらうことができた（12/1）。

<奪わない暮らし_日本の森>

JVC ラオスの提唱する「奪わない暮らし/奪われない暮らし」を受けて、このテーマを基に日本の私たちの暮らしの現状を振り返りながら、ラオスを一つの事例として、開発と共有資源保全、森林減少と私たちの暮らしとのつながりを日本国内に向けて発信していく。

① 新治市民の森歩き「森に学ぶ第 2 回」

2023 年度に引き続き、新治市民の森歩き「森に学ぶ第 2 回」（10/14 | 講師：NPO 法人新治里山「わ」を広げる会 事務局長 吉武美保子さん | 参加者 17 名）を実施した。初めに、ラオスの森や人々の自然観などについて紹介。その後吉武さんの案内で森を歩き、日本の里山暮らしなどについても話を伺った。自然と共に暮らすラオスとの共通点なども感じる事ができた。

② 森の絵本『森の歌がきこえる』（田島征三及びルートマニ・インシシェンマイ合作）

地球の木が制作のきっかけとなったこの絵本が 7 月に偕成社から出版された。広報に協力すると共に、以下のイベント等で読み聞かせやワークショップを行った。

- ・ラオス図書プログラムのイベント（7/25）
- ・オルタ館フェスタ（11/1～2）
- ・JICA ライブラリーでの出前講座

<地球市民活動>

「グローバル社会の動向とポスト SDGs の行方、市民社会のあり方について示唆をもらうこと」を目的に地球の木講座を実施した。地域のイベントに参加する他、7 月に出版された『森の歌がきこえる』の販売を行った。

① 地球の木講座「カタツムリの知恵と脱成長～豊かさと幸福を問い直す～」

講師に立教大学の中野佳裕さんを迎え、地球の木講座「カタツムリの知恵と脱成長～豊かさと幸福を問い直す～」を実施した。（3/22 | 会場：青少年交流・活動スペースさくらリビング | 参加者：22 名）

講師は市民社会やコミュニティに関する研究を通じて社会変革につながる「脱成長」論を展開する研究者。参加者からはこれからの社会を考えるうえで参考になったなど前向きな感想が寄せられた。

② 地域イベント

以下の地域イベントに参加し、地球の木の活動紹介とクラフト販売を行った。特にオルタ館フェスタではラオスのピー（精霊）のチャーム作りや『森の歌がきこえる』の読み聞かせのワークショップなど、地球の木の活動を知ってもらうための工夫をした。

多文化フェア@なかやま（10/6）、オルタ館フェスタ（11/1・2）、かまくら国際交流フェスティバル（11/10）、東日本大震災復興まつり（11/23）に参加

5) 広報活動・政策提言などの事業

(社会教育事業に関して、機関紙などの広報活動並びにそれらを通して行う政策提言などの事業)

<広報>

会報誌やホームページ、メールマガジンなどで情報発信を行った。年次報告書を発行し、ホームページに掲載するとともに、広く配布した。2024 年 4 月には団体のドメインを変更し、新ホームページをリリースした。

① 会報誌

6 月 (96 号)、12 月 (97 号)、3 月 (98 号) の 3 回発行 (各 1000 部)

② 2023 年度年次報告書

9 月に発行 (1,000 部)

③ ホームページ

2023 年度から準備していた新ホームページを 2024 年の 4 月にリリースした。同時に団体ドメインを ngo-earthtree.org に変更した。新ホームページでは SSL に対応し、活動をよりわかりやすくするよう構成した。

その後、ホームページの英語版を掲載するため、英語に堪能な会員の協力を得て翻訳作業を実施。ホームページのボランティア技術者の協力を得て、10 月には英語ページへの切り替え表示ができるようにした。2025 年度、未掲載のページについて、継続して作業を続ける。

④ メールマガジン

メールマガジン (Asian Wind) を毎月発行した (登録者 310 名)

<政策提言等>

メコン・ウォッチの声明「海外交通都市開発事業支援機構 (JOIN) はミャンマーの問題事業から責任ある撤退を」や非戦ネットの「政府安全保障能力強化支援《OSA》への異議申し立ての行動」に賛同した。

JVC などが呼びかけ人となっている「ガザの恒常的停戦とパレスチナの和平を求める声明」に賛同、署名呼びかけをおこなった。

6) ネットワーク活動

(地球の木の目的にかなう事業を行っている団体との情報交換および協力事業)

① 参加団体

<理事・委員として参加>

横浜 NGO ネットワーク (理事)、かながわ生き活き市民基金 (理事、評議員)、キララ賞選考委員会 (選考委員)、「南北コリアと日本のともだち展」絵画展実行委員会 (実行委員)、あーすフェスタかながわ実行委員会 (実行委員・企画委員)、「東日本大震災復興支援まつり」実行委員会 (実行委員)、東日本大震災復興・支援ネットワークかながわ (幹事)、遺贈寄付等相談・市民ネット (運営委員)

<参加団体 (会員) >

国際協力 NGO センター (JANIC)、開発教育協会 (DEAR)、APLA、メコン・ウォッチ、参加型システム研究所

<その他>

非戦ネット

② ネットワーク団体との連携

- ・ あーすフェスタかながわ 2024（11/30、12/1）

あーすフェスタかながわ 2024 のワークショップ「各国の言葉と文化」紹介の中の「ネパール語での挨拶を覚えよう。ネパール文字で名前を書いてみよう」を地球の木が企画、実施した。2023 年につづき 2 年目。神奈川区多文化共生ラウンジで知り合ったネパール人の小中学生も飛び入りで参加してくれた。

7) 組織運営

① 理事会を定期開催した

② 3 か年計画の立案

3 か年計画はチームを形成して、進め、立案した。進めるのにあたり、過去、現在の活動メンバーにアンケートを実施するとともに、2 名が「NPO の事業評価」勉強会に参加した。2 月のコアメンバーとの意見交換を経て、理事会に答申した。

③ 組織評価や間接支援団体としてのプロジェクト評価などの学習

組織評価やプロジェクト評価についての学習会は未実施。

④ 会員・賛同者・参加者の拡大

会員加入のための加入用紙を作成、いつでも使えるように用意した。

⑤ 年末募金などの募金・寄付

年末募金などの寄付を呼びかけた。

⑥ もったいないキャンペーン（物品寄付）

生協での共同購入カタログや会員に呼びかけ、物品寄付を募った。また、寄付品の換金作業も積極的に行った。

⑦ ドメイン変更対応

団体ドメインの変更にともない、メールや各種登録情報の更新、設定変更を行った。

⑧ 認定 NPO 格更新準備

2020 年に更新した認定 NPO 格が 2025 年 7 月で終了するため、更新手続きの準備を行った。

<会員報告>

- ・ 2025 年 3 月末会員数： 551 名

正会員： 131 名

サポート会員： 418 名（内団体会員 2 団体）

- ・ 2024 年度入退会者数と主な退会理由

入会者： 11 名

退会者： 25 名

退会理由：経済的理由、活動整理など

以上